

■ブラームス/交響曲第3番へ長調 Op.90

初演を聴いたウィーンの著名な評論家エドゥアルト・ハンスリックが、「芸術的に完璧な作品として心を打つ」と述べたブラームスの第3番は、50歳を迎えた作曲家の巧みな手腕と個性を感じさせる交響曲である。初夏に旅先のウィースバーデンで、ほんの数か月というブラームスとしては異例の速さで書き上げられたものの、緻密で細部まで作りこまれた形式、楽器の組み合わせが新鮮なオーケストレーション、転調の優れた技巧など、その内容はじつに豊か。初演を指揮したハンス・リヒターが「ブラームスの《エロイカ》だ」と評したとおり、両端楽章は勇壮で力強く、聴く者に高揚感をもたらす。一方、クララ・シューマンが「森の牧歌」と呼んだように、小ぶりの中間楽章はやわらかく優美で、シューマンやメンデルスゾーン風のロマンティズムをたたえている。

第1楽章アレグロ・コン・ブリオはソナタ形式。冒頭に作品全体を貫く力強い主要モチーフが響く。展開部の終わりではホルン、再現部ではオーボエがこのモチーフを独奏する。エネルギーに始まるが、結尾は静寂に包まれる。

第2楽章アンダンテは特殊なソナタ形式。木管楽器によって主題が呈示され、弦楽器が応える。音色の繊細な配置が優れている。

第3楽章ポコ・アレグレットは3部形式でハ短調。主部の主題はチェロによる叙情的なメロディで、のちに映画でも有名になった。主題を繰り返すたびに楽器の使い方が変化する。中間部は変イ長調で、拍の感覚を乱す、おもしろいリズム法が特徴。

第4楽章アレグロはソナタ形式。全体に響きは厚ぼったく、ハ短調に支配されている。第1主題が盛り上がり、ハ長調の第2主題が輝かしい高揚感をもたらす。コーダでようやく主調となるのだが、エネルギーはひたすら下降線をたどって、ピアノツシモの小さな音で全曲が締めくられる。

音楽学者 白石美雪

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

【楽器編成】フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、
コントラファゴット、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、
ティンパニ、弦五部 ※スコア上の表記